

王なるイエス

ヨハネによる福音書一九章一〜一六節

ピラトはユダヤ人たちに、「見よ、あなたがたの王だ」と言う
と、彼らは叫んだ。「連れて行け。連れて行け。十字架につけ
ろ。」(14、15)

祭司長たちがイエスを訴えた罪状は、イエスがローマ皇帝に背いて自分を王と
しているということでした。総督ピラトは皮肉をこめて、「見よ、あなたがたの
王だ」とユダヤ人たちに告げました。事実、イエスは彼らの王でした。ピラトは
自分でも気づかないうちに、真実を語っていたのです。十字架で私たちのために
死なれたイエスこそ、私たちが従うべき王なのです。ピラトの言葉を用いて、聖
書は私たちに訴えます。「見よ、あなたがたの王だ」と。人々が否定し、十字架
につけて殺したナザレのイエスを王として心の内に迎えることこそ、神が私たち
に求めておられることです。私たちの日々の生活は誰によって、あるいは何によ
って支配されているでしょうか。私たちのために十字架で死んでくださった主イ
エスに、私たちの心の王座を明け渡そうではありませんか。